

★ 来年の「今年の漢字」は「転」かもしれません！？

年末恒例の今年の世相を表す漢字一字に「災」が選ばれました。公益財団法人「日本漢字能力検定協会」が毎年全国公募により、12月12日(いい字一字)の「漢字の日」に発表しているイベントですが、応募総数19万3214票の中で最多の2万858票を獲得して選ばれたようです。どこかの駅名の公募と異なり、最多得票の漢字がそのまま決定されますので非常に分かりやすくてすっきりしています。「災」が選ばれたのは2004年に続いて2度目とのことですが、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の台風21号と北海道地震などの自然災害が多発しただけでなく、スポーツ界のパワハラなどの人災もその理由に挙げられています。

この発表を受けて、安倍首相は「首相自身が選ぶ今年の漢字は？」との記者団の質問に対して「転」と答えました。ロシアのプーチン大統領との首脳会談で日露関係の大きな転機が訪れてきた、というのがその理由のようですが、むしろ来年の方が日露関係で具体的な進展が望めるのかどうかははっきりし、何よりも天皇陛下の退位と皇太子さまの即位によって新元号がスタートすること、先延ばしになっていた消費税が10%になる見込みであること、与党が強行採決して成立させた改正入管法によって4月以降外国人労働者が飛躍的に増えることなどから、私たちの日常生活が大きく変化する一年になることは間違いないと思われまますので、「転」は来年まで取っておくのがよいのでは？と個人的には思っています。

最近、巷では「新元号」の予想が賑やかになっています。そもそも元号は紀元前の中国、前漢の武帝の時代に漢字と数字の組み合わせで年次を表したのが始まりとされています。日本へ伝わった元号の歴史は、645年に孝徳天皇の定めた「大化」からスタートし、1300年余りの年月を経て「平成」まで247の元号が制定されました。基本的には天皇一代で一つの元号を使いますが、正式なルールではなかったため、自然災害などを理由に改元(元号を改めること)が行われ、天皇一代で8つの元号が使われた記録もあるようです。そこで明治の改元の際にこうした慣習が改められ、天皇一代で使う元号を一つとする「一世一元制」が採用されて旧皇室典範に明記されました。戦後、日本国憲法が施行されるのに合わせて旧皇室典範が改正され、元号の法的根拠が一時的に失われてしまいましたが、元号の法制化を求める声が強まったことから政府は昭和54年に「元号は政令で定める」「元号は皇位の継承があった場合に限り改める」という2項目からなる元号法を成立させ、元号の法的根拠を取り戻しました。元号は、日本以外にも韓国やベトナムなどアジアの漢字文化圏に広まりましたが、今現在は世界で唯一、日本だけで使われているようです。今回の改元に当たっては、元号による和暦と西暦の使い分けの煩わしさから元号不要の声も一部で挙がっていましたが、日本人の心に深く根ざした制度ですので多くの国民にとっては違和感がないことのように思います。さて、肝心の「新元号」の予想ですが、元号法の施行後に「元号選定手続」が定められており、以下の6項目に留意することとされています。

- ① 国民の理想としてふさわしいよい意味を持つこと
- ② 漢字2字であること
- ③ 書きやすいこと
- ④ 読みやすいこと
- ⑤ 過去に元号やおくり名(天皇や皇后などの崩御後の呼び名)として使われていないこと
- ⑥ 一般的、日常的に使われていないこと

それ以外にもかなり重要な要素として、アルファベットの頭文字と候補名の典拠が加えられます。ご存知のとおり、明治は「M」、大正は「T」、昭和は「S」、平成は「H」ですので、重なってしまったときの不都合を考慮して、「サ行」「タ行」「ハ行」「マ行」は除かれるであろうと予想されています。(「マ行」は微妙ですが・・・)また、候補名が、中国や日本の古い書物にそのよりどころが載っていることが求められていますので、過去に候補に挙がったものの採用されなかった「未採用元号」が有力であるとも言われています。

先日、新元号の公表は来年の4月1日以降と正式に発表されました。早すぎてもダメ、遅すぎてもダメということで、ギリギリ後ろにずらして1ヶ月前の公表となったようですが、お正月休みにでも悠久の歴史を遡ってじっくりと予想してみても如何でしょうか。(工藤克己)